※本資料は基本設計における内容であり、今後、詳細な検討を行う実施設計において変更となる可能性があります。

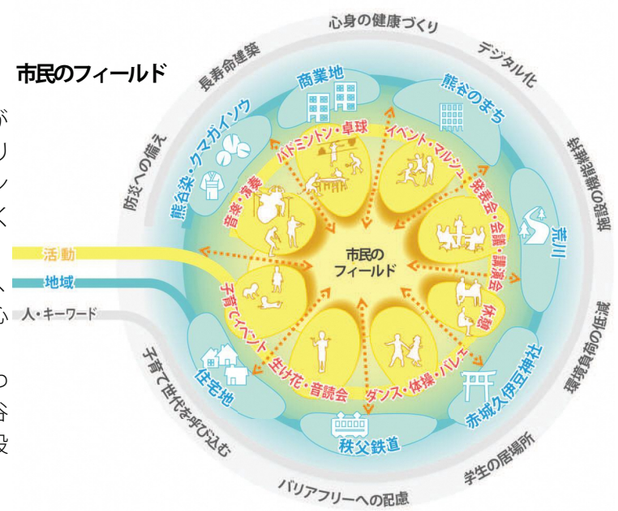


設計コンセプト

Join us Field

活動がつながる・地域とつながる　市民のフィールド

- 生涯にわたってさまざまな活動ができる市民のフィールドをつくります。熊谷の市民の活動のシンボルとしてまち全体に深く根付く施設を目指します。
- 市民の活動を公開する設えとし、互いの活動に対して興味・関心を高める空間構成とします。
- 市民の活動が地域に波及し、賑わう施設とします。周辺地域や熊谷の資源とつながり、調和する施設をつくります。



設計方針

設計コンセプト、基本構想を踏まえて、４つの設計方針を示します。

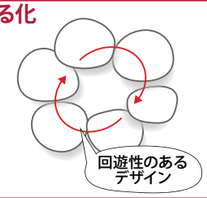
（１）現行施設の機能を発展的に維持

- 多種多様な活動に対応した設えをもつ部屋をつくります。
- ユニバーサルデザインとバリアフリーを徹底した施設とします。



（２）市民活動の見える化

- 市民が交流でき、活動の情報、様子が見える空間構成とします。
- 新しい世代が利用しやすい環境をつくります。



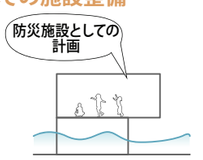
（３）周辺地域の景観づくり

- 周辺地域の緑と連続する外部環境を形成します。
- 限られたスペースを最大限に生かした配置計画とします。



（４）社会インフラとしての施設整備

- 災害時に備えた施設とします
- ZEB Ready 取得を目指します
- 長寿命な建築計画とします



建築概要

（1）計画地

建設予定地	埼玉県熊谷市石原字上宿地内
敷地面積	約7,700㎡
都市計画区域	都市計画区域内
用途地域	第一種住居地域
防火地域	防火地域外、準防火地域外
その他地域	法22条地域
指定容積率	200%
指定建蔽率	60%（角地の緩和により70%）
高度地区	指定なし
日影規制	規制あり

（2）計画建物

建物用途	生涯活動センター
構造種別	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）、基礎構造：直接基礎
延床面積	2,930㎡ 1階：1,450㎡　2階：1,480㎡ （車庫等の部分：82㎡）
階数	2階建て
駐車台数	自動車　134台 バイク　10台 自転車　36台

（3）主要な仕上

〈外部仕上〉

床　：インターロッキングブロック舗装、アスファルト舗装、人工木材ウッドデッキ
壁　：化粧コンクリート打ち放し
屋根：アスファルト防水及び、シート防水
軒天：化粧コンクリート打ち放し

〈内部仕上〉

床　：ビニル床シート、天然リノリウム床シート
壁　：化粧コンクリート打ち放し、石膏ボードの上塗装
天井：グラスウールボード、ロックウール化粧吸音板

（4）建築設備

空調換気設備：全熱交換器+個別式/パッケージエアコン
給水方式：直結直圧給水方式
排水方式：汚水雑排水合流自然流下方式
消火設備：屋内消火栓（易操作性1号消火栓）、消火器

（5）その他

ZEB目標：ZEB Ready（BEI≦0.5）

配置計画

（１）異性質の３つのエリアとの調和

・建物は、施設内外の活動が表出するように北東側に設け、幹線道路から視認される市民の活動のシンボルとなる施設とします。また、住宅地への日影、騒音の影響に配慮した配置とします。

（２）敷地の有効活用

・不整形な敷地形状を最大限生かした建物形状とします。
・南 , 西側には、駐車場を配置し、住宅地とのバッファーゾーンとします。
・駐車場は、整形とし駐車の安全性に配慮します。

（３）周囲と連続した緑による景観づくり

・敷地東側には、神社の緑と連続するよう緑地を広くとります。また、その他の敷地外周部にも樹木を連続して配置し、良好な自然環境を形成します。

（４）活動をまちに創出する

・敷地全体で市民が利用できる活動ゾーンをつくります。
・北側に広場（オープンサイドパーク）を設けて、イベントなどでの利用を想定します。キッチンカーの乗り入れも可能な仕様とします。

外構計画

（１）雨水排水計画

・雨水は敷地内処理を原則とし、敷地中心に建物を配置していることから、雨水浸透処理施設を ２ヶ所設けます。豪雨時に処理能力を超えた場合のみオーバーフロー分を公共雨水排水管へ放流します。

（２）樹木選定

・東側の緑地帯は、神社の雑木林と調和したコナラ、コブシ、シラカシなどの樹木を植栽します。高木・中木の広葉樹をランダムに植栽し、夏季の日射を遮る効果もつくります。

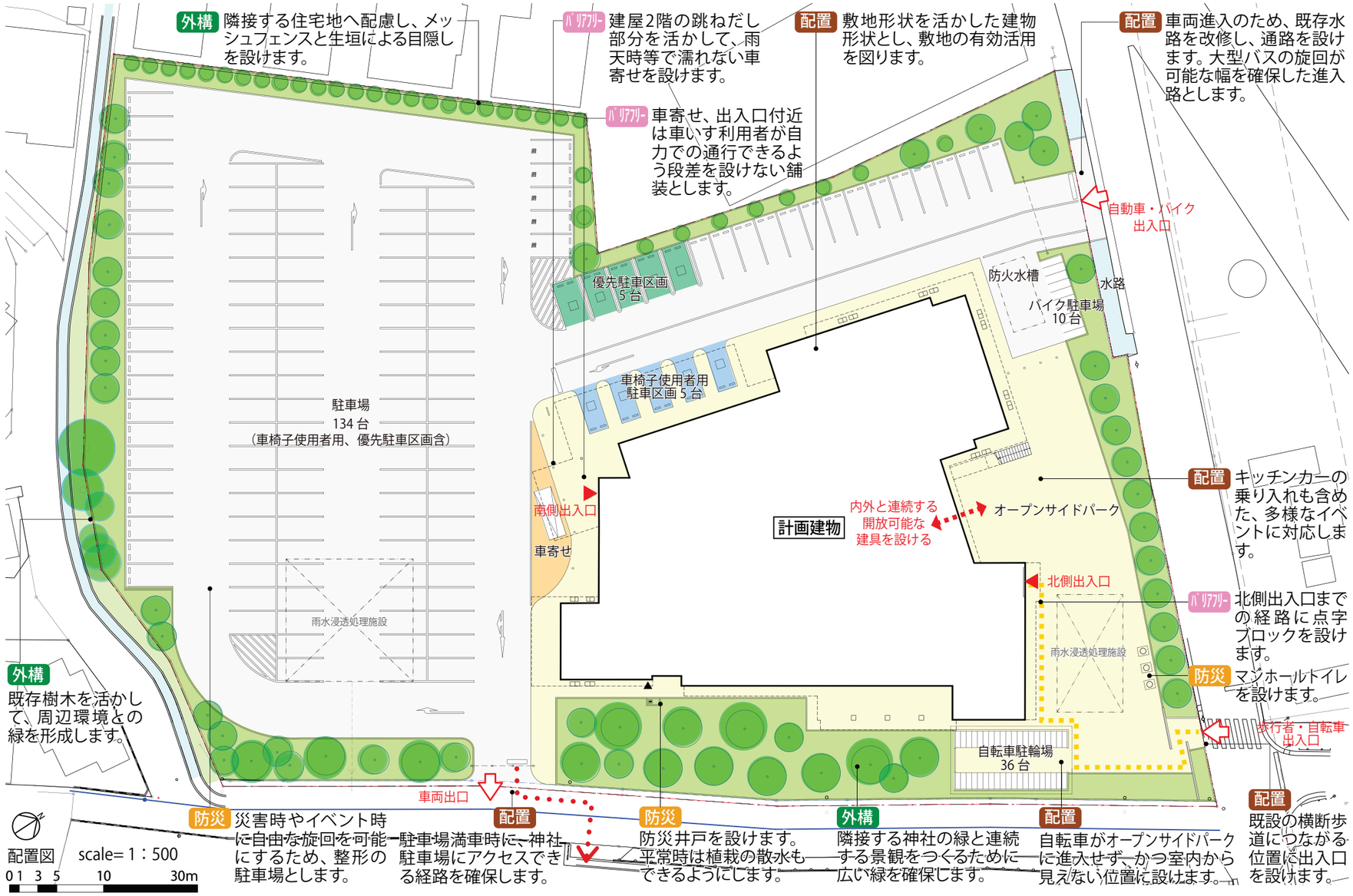
立面計画

（１）市民の活動のシンボルをつくる

・敷地北側の幹線道路や拡幅する東側道路に対しての見え方に配慮します。施設内での活動がまちに表出するように、ガラス面を多く用いたデザインとします。
・外壁はコンクリート打ち放しとし、シンプルかつシンボリックにします。また仕上げないことで建設コストを削減します。

（２）日射抑制

・1階の貸室ガラス面には、庇を設け、夏期の直射日光を制御します。
・西面は、西日を抑制するために開口部を少なくします。

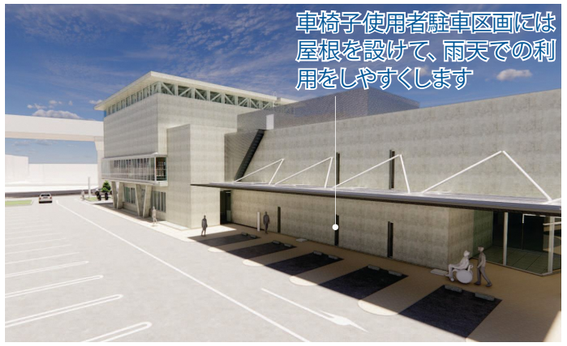




北側からみたイメージ



北側の前面道路からみたオープンサイドパーク



西側外壁のイメージ

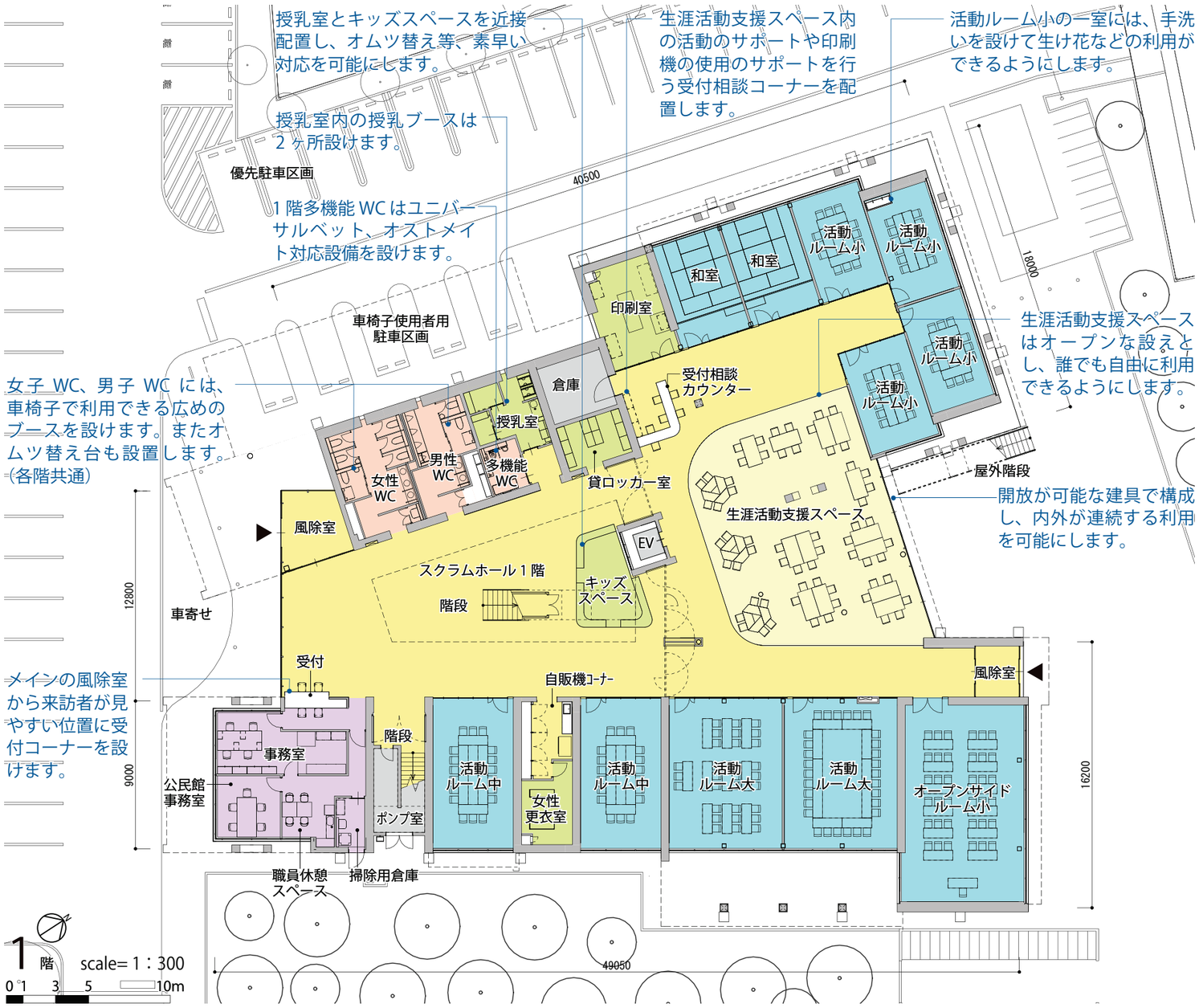
平面計画

（１）施設の一体感をつくる

・誰でも自由に利用できるホール（スクラムホール）を施設の中心に据え、その一角に「生涯活動支援スペース」を設けます。
・活動ルームや多目的ルームなどの貸室は、ホールを取り囲むように配置し、施設全体で回遊できるようにします。
・貸室とホールの間は、ガラス張りとし、室内の活動の様子を他の利用者が感じられるようにすると共に、ガラス面の視線の高さに半透明の目隠しフィルムを貼り、貸室利用者に配慮します。

（２）1 階 平面・内部空間の計画

・比較的利用頻度が高い会議主体の活動ができる貸室を配置します。
・南側出入口付近、ホール全体が視認できる南側の一角に、管理諸室を設け、来訪者・利用者の対応を行いやすくします。
・生涯活動支援スペースは人数に合わせて自由に机を動かして利用できるようにします。
・子育て世代の利用に配慮し、アクセスしやすい位置に、キッズスペース、授乳室、和室を設けます。





生涯活動支援スペースのイメージ



スクラムホール１階のイメージ


活動ルーム大のイメージ

（３）2 階 平面・内部空間の計画

・2 階には、運動や音楽の演奏ができる貸室をまとめて配置します。
・スクラムホール 2 には、吹抜けを設けて 1 階の活動が連続する空間とし、一体感のある施設構成とします。
・部屋のサイズが大きな「アクティブフィールド」と「オープンサイドルーム大」は、第二避難所としての利用を想定します。災害時には、照明設備やコンセントが利用できるようにします。
・多目的ルーム、アクティブフィールドはそれぞれの運動、活動がしやすいように、クッション性のある床材を使用します。
・上下階で男女の更衣室を分けます。

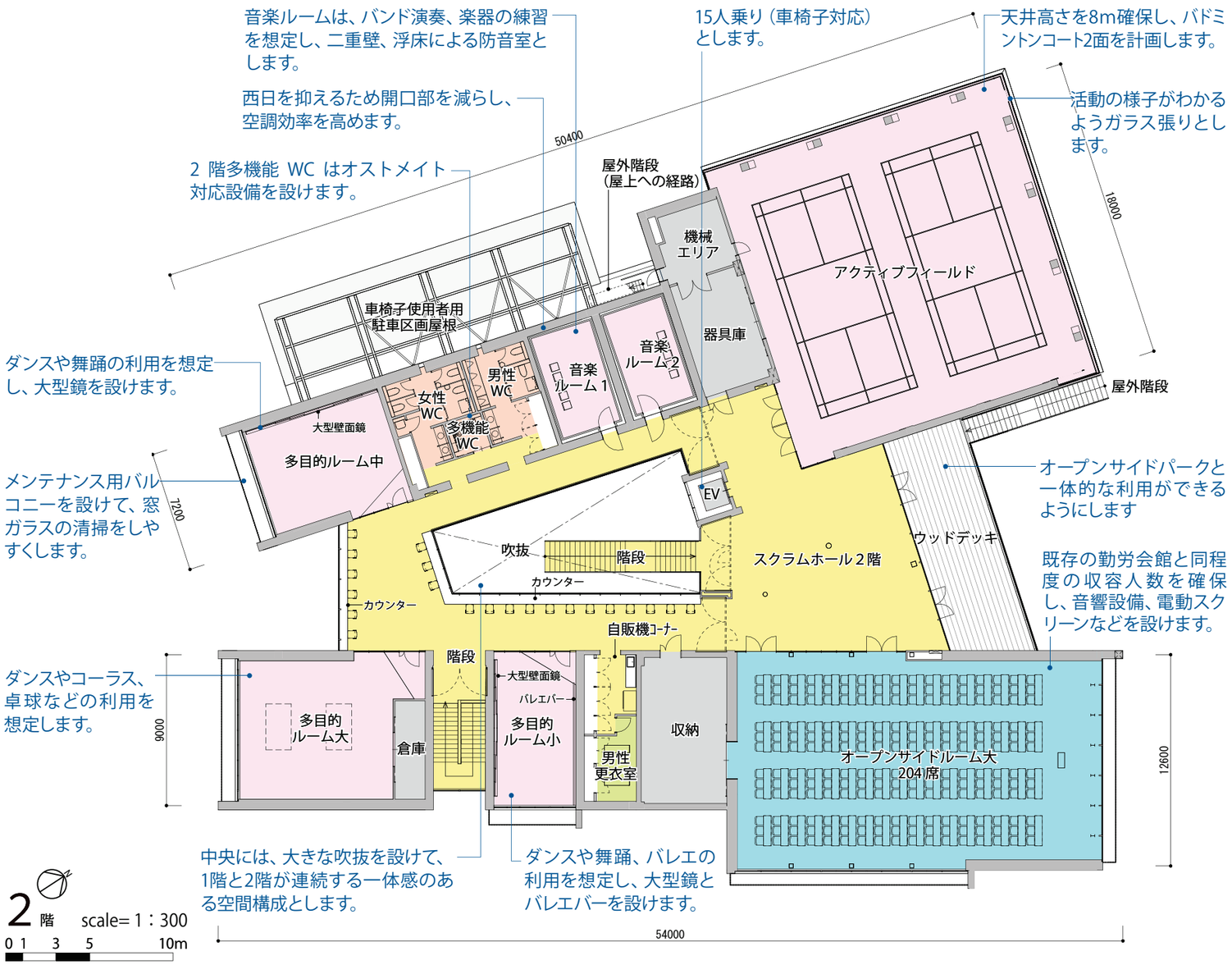
各種計画

（１）コストパフォーマンスに優れた床スラブの採用

・床は、遮音性に優れたボイドスラブを採用し、さまざまな活動による騒音・振動を抑えます。ボイドスラブにより、梁の高さをスラブの厚みと合わせることが可能になり、梁型の無い断面形状をつくります。梁型を無くすことでフラットな面をつくり天井仕上げを無くすことができます。

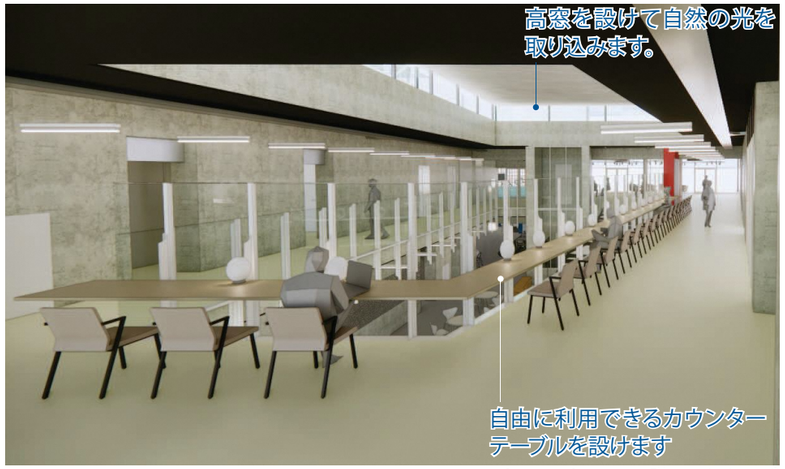
（２）来る災害に備えた浸水対策

・設備機器は、すべて屋上に設置します。
・器具庫の一角には、防災備蓄品を保管するスペースを確保しておきます。





アクティブフィールドのイメージ



スクラムホール２階のイメージ



オープンサイドルーム大のイメージ